

研究

獨逸に於ける道路行政 (一)

多田基

ナチスが政權を掌握した時は、法律及行政の全分野に程度の強弱はあるが分裂と不統一が存在してゐた。かゝる事情は、立法と行政とに必然的統一を圖ると云ふナチスの見解に全く對立したものであつた。が故に、多くの分野では尠くとも早速、新國家指導と云ふ大目標に凡べてを向ける必要があつた。特に道路制度に於いては直ちに新法則を定める實際的需要があつた。何故なら、道路の建設こそは、一方に於いては急速なる勞働調達に最も適してをり、他方

優秀道路はヒトラーの希望せる自動車獎勵の實現の前提とならなければならなかつたからである。道路制度の分野には二つの大きな立法が行はれた。即ち一は、自動車専用道路の建設に關するものであり、他は道路制度の新法則に關するものである。こゝでは最後のものを研究の對象とする。

道路制度に於けるナチス的新法則を正しく評價するには、今迄の事情を一通り知る必要がある。但しこゝではプ



ロシアに於ける道路制度に限ることとする。プロシヤは獨逸國中で最も完全なる道路行政を行つてゐると云ふのではなく、行政區劃と法律原理に甚だしく不統一があるため、之と比較對照するのが最も適してゐるからである。その上、獨逸全國に於ける今迄の事情を説明することは材料が甚だ廣汎に及ぶので、これは特殊研究に譲らなければならぬ。

この研究で云ふ『道路』とは法律の一般的意義に於ける公道と同一ではない。道路とは成程公道を云ふのであるが、普通の公道に附隨してゐない多くの特別な條件及特徴を所有してゐる。從來の行政法では、道路の概念規定が明白ではない。こゝで取扱ふ道路概念の一般的解釋はプロシヤの上級裁判所が與へてゐるものに從ふ。プロシヤ上級裁判所は、道路のために特に公布されたる法律規則が適用される人工的道路が道路であると解釋してゐる。プロシヤ一般國法は、かゝる道路を鋪道 (Dammstrasse) と稱してゐる。ナポレオン後の時代にあつては、これは Cha-

ussee とか又は Kunststrasse と呼ばれた。國道 (Staatschausee, Staatsstrasse) 地方道 (Bezirksstrasse, Provinzialstrasse, Kreisstrasse) は共に同一事情の下に於ける道路である。これ等は一般的用途にとゞまらざる特殊な公道である。その目的は、先づ經濟目的であつて、就中經濟界の迅速且つ容易なる運輸の可能性を目的とし、かくして經濟諸事情の一般的向上を計らんとするのである。これ等の道路には特に、例へば賃取權、土地收用權及近隣地方からの建設材料取得權の如き特權が附與されてゐた。一八八七年六月二十日のプロシヤ警察法に示されてゐる國家承認と云ふ特別事項は特に重要な要求であつた。従つてこの種の道路は、國家權力に依つてのみ生ずるのであつて、その廢止は、又國家權力の等級低下處分に依つてのみ出來たのである。道路に對する寄附行爲の道路法的概念は存在せず、道路の建設負擔者は又國家の承認を得て任命されねばならなかつた。道路法は維持義務者を決定せず、特別な交通需要があつても、その建設に誰人も強

制されることはなかつた。

新法制の制定後は、概念規定は非常に簡單になつた。この研究では、道路としての國道、一級地方道、二級地方道のみを研究對象とする。

自動車専用道路は、この論文で云ふ道路ではない。道路法の第一條の場所から場所への交通に役立つ道路の分類に於いては、自動車専用道路は第一群として記入されてゐる。道路法は自動車専用道路を道路と主張してゐるのである。所が交通規則の第一條に依ると自動車専用道路をその適用範圍から除外してゐる。自動車専用道路は公的交通施設であるが、その利用は自動車に限定され、それには廣汎な特別法が適用されてゐる。従つて道路法は自動車道路には適用されない。

歴史的回顧

獨逸民族の移住圏内に於ける古代道路は、紀元一世紀頃に出來たものである。これらの道路は勿論この地方に居住せる當時の住民に依つて建設されたものではなかつた。これ

らの建設者はアルプスを越へ、南部獨逸の大部分及西部獨逸の殆んど全部を植民地として席捲したローマ人であつた。彼等はヨーロッパに組織的な道路建設を行つた最初の者で、既に發達した道路行政を知つてゐた。ローマ道路は十九世紀に至る迄他に比類なき道路であり、建設に一貫せる統一意思からのみ説明のつく施設を有する大規模な人工道路であつた。

ローマ道路は技術的に觀て優秀な施設であつたため、現代に至る迄多くの地方にローマ道路の遺跡が見受けられる。従つて、驚異に値する程の細密なローマ道路網に關する深い研究が、行はれるのは當然である。後援軍の確保及びレー式に依る迅速なる通信の軍事的使命は、先づこの道路の目的を決定したのである。ローマ道路は、その後になつて植民地の經濟的擄取に役立つた。ローマ道路には距離を示す哩程標が設けられてゐた。又道路標が設置され道路地圖迄作製されてゐた。一定距離毎に小型の保砦形式の道路監視所が監視人のために設けられ、その他に宿泊及換へ馬

のために宿泊所設備があつた。

ローマ人を驅逐してからは、ローマ人の移住地に於ける秩序ある道路制度に代つて、道路の建設及維持にはローマ人の移住地以外の地方に行はれてゐた無政府状態が現出した。斯して、ローマ道路は荒廢に歸し、又一部分ではあるが故意に破壊された所もあつた。道路は技術的に建設されず、又維持もされなかつた。カール大王は、道路網整備の重要性を既に早くより認識し、先ローマ道路の維持に努力し、他方に就いて新道路の建設を計つたが遂にその成果を得るに至らなかつた。更に十四世紀になつて、カール四世は道路事務全般を彼の兄弟の手中に統合せんと試みたが、政治的分裂のため道路の荒廢の劇化を喰ひ止めることが出来なかつた。國王の權力を排除せんとする王侯の聯邦獨立義は道路制度に全くの無政府状態を齎したのであつた。

十八世紀になつて、始めて獨逸に道路の技術的建設が起り、王侯は自國の領土内に於いて之を實施した。漸次に道路建設技術が發達して道路行政が形成されるに至つた。但

し、この道路行政の主たる事務は通行税の徴收と云ふことであつた。嚴格なる道路行政を自國に施行し、主として軍事的理由より大道路網の建設を圖つたナポレオンは、當時の獨逸道路制度に新たに強い刺激を與へた。この場合、ローマ道路を模範とせることは明白である。獨逸に於けるナポレオンの征服せる地方では、道路制度は未だ初歩を出でなかつたが、それにも拘らず、これは非常に好影響を與へたので、恐らく組織的道路建設の推進力となつたのであらう。このことは、一八一五年以後、ライン州に於けるプロシヤの行政活動の特徴となつてゐる。プロシヤの道路交通の重要性は増加し、全道路行政を國家の手中に統一するやう企てられたが、残念にも諸地方の反對に合つて挫折してしまつたのである。

蒸氣機械の採用と鐵道の建設に依つて、大部分の交通は道路から奪はれ道路行政の重要性は著しく減少した。これがため、道路の建設技術の發展に障害が起つたのである。この中絶状態は、約五十年位しか勿論續かなかつた。一八

九〇年に自動車が見られ、約一九一〇年迄自動車は從來の道路上で發展を遂げた。事實、前世界大戰は自動車化せる道路交通の發展を再び數年間停めたが、大戰後に於いては、道路が自動車に追隨出來ないほどに急速に自動車の方が進歩して行つた。その上、道路行政の有害無益な分裂

は、政治的分裂と一緒になつて、統一の方策を不可能ならしめた。その後、道路建設費を調達するために自動車課税が實施されたが、税収入は大した金額ではなく、自動車製造数は減少すると同時に他方失業者が増加して來た。一九三二年には、無數の道路行政は全く衰亡に傾き、道路自體は全く荒廢に歸してしまふやうに思はれた。他方に於いて七百萬の國民は失業してゐたのである。ヒトラー總統は政權掌握の時この状態を知つてゐたのである。總統が一九三三年五月一日に彼の大勞働調達計畫を發表した時、自動車専用道路の建設に依る獨逸交通網の整備は、特に重要な位置を占むるに至つた。彼は乗用自動車の自動車税を廢止して、これに依つて自動車工業を再び發展せしめた。一九三

四年には道路制度に關するヒトラー法が公布された。これは暫定的なものに過ぎなかつたが、基礎的な法律であつて獨逸の統一的道路行政を創出し、これに依つて獨逸道路制度の新時代が現出したのである。

プロシヤに於ける道路行政の發展

プロシヤに於ける道路建設及道路行政に法律制度が初めて定められたのは十八世紀の後半であつた。道路建設に於けるマグデブルク及ヘルベルシュタットの臣民の義務に關する一七八七年十一月十三日の公告はプロシヤ帝國の最も古い法律と觀ることが出来る。この法律は、一般的なものではなく、適用範圍が限られてゐたが道路建設の法律的基础となつたのである。一七九四年六月一日から施行された一般國法の第一部第一章の第七十八條から第八十二條には道路法規が書かれてゐる。又第二部第十五章の第一條から第三十七條迄は國道及軍用道路の概念、國家の權利義務、道路維持並に道路の新設に關する規則を定め、第十七條から第二十四條は鋪道 (Dammstrasse) に關する法規を掲

げてゐる。これ等の道路は、プロシヤ一般國法の用語に依つてゐるが、現代の等級別せる道路の先驅者として看做すことが出来る。この法規に依ると道路の建設及道路行政は國家の特權であると書かれてゐる。一八三九年三月十七日の法律は、道路交通のみを規定した最初の法律であるから、今日の獨逸道路交通規則の先驅者であると云へる。

交通税に關する一八三八年六月十六日の法律は、路錢徵收の最初の一般的規則を定めたもので、その後一八四〇年二月二十九日の國道に於ける路錢徵收率及國道上に於ける警察權の執行に關する勅令に依つて補足された。

次に一八三七年四月三十日の補償法 (Dotationsgesetz) の第五條及第六條の施行に關する一八七五年六月八日の法律は、プロシヤ道路行政の原則に一つの形態を與へたものである。この形態は新法制の制定に至る迄國道法に依つて無制限に適用され、又その主要原理は今日に至るも尙適用されてゐる。

一八八三年八月一日の權限法は道路警察法第五十五條以

下に、原則を明らかにし、その權限を明示した。道路交通に關する一八三九年三月十七日の法律變更に關する一八八七年六月二十日の法律は交通警察の規定を擴張し、その第十二條には如何なる道路を人工的道路として適用すべきかを決定してゐる。

更に近年に至つては、一九〇二年八月十六日の道路建設の前拂金に關する法律に代つた一九二三年十一月廿五日の道路維持の爲の前拂金徵收に關する法律並に道路維持を圖る爲の州縣郡等に對するプロシヤの自動車稅收入分配を規定せる一九二三年十月三十日から一九三〇年四月一日に至るプロシヤ財政補償法の施行規則を擧げることが出来る。

この研究に於いても知らるゝ如く、プロシヤ全國に適用された換言すれば公布された法律及規則は比較的に尠いのである。併し乍ら、その代りに地方的意義を有する道路法の種類は甚だ多數に上つてゐる。これ等の道路法で、その制定が十六世紀に遡るものも若干ある。大抵のものは、十八世紀及十九世紀、特に十九世紀の後半に制定されたもの

である。これ等の道路法を凡べて擧げるとすれば、この紙面に溢れてしまふであらう。ゲルメルスハウゼン (Germerhausen) の「プロシヤに於ける道路法及道路行政論」には、一五五四年から一九二九年に至る迄かゝる道路法を百十三種擧げてゐる。各州は、それ自體の道路法制を特別道路法として所有し、その上大抵の場合、それゝの道路警察法を實施してゐた。路錢徴收に關する法律も各州毎に制定されてゐた。その上早くから自治を實施してゐた州の多くの内には、各々地方的傳統的道路規則が尙效力を持つてゐた。例へばエツケル (Ettel) は「ライン州に於ける道路法」なる著書に於いてライン州には、それゝの道路法が有効に獨立して適用された地域が十九あると指摘し、今日に於いても尙有效なるものがあると言つてゐる。が故に、ライン州に於ける法律事情は過去現在を問はず専門學者でさへも精通し得ない程複雑且つ困難である。その後補償法が發布されてから、郡も又道路建設に對し關心を持ちだしたので、特別な郡道路規則が發布された。

これに依つて法律に於ける混亂は更に一層擴大されるに過ぎなかつた。

組織的道路建設は、プロシヤに於いても他の諸國と同様に十八世紀の後半に初めて起つたのである。併し乍ら、優秀道路の經濟的軍事的意義が明白に認識されたナポレオン以後に初めて道路築造が重要な位置を占めて來た。これがため、この頃から漸次に秩序ある道路行政が發達した。初め、プロシヤの道路行政は中央官廳としての内務省と共に國王の手中に收められてゐた。新規築造及道路維持の監督に對しては「王任命の地方技師」が權限を有し、彼等は地方行政のそれゝの區劃に屬してゐた。この状態は、補償法の公布迄存続してゐた。併し乍ら、一八二一年から自治體としての州が、それゝの地方道路の建設を初め、これ等の道路行政を自ら行つてゐた。その他に、ライン州では、「一八二二年九月十七日ライン河左岸に於ける地方道路のための地租附加税に關する勅令」が課税の基礎を示したのである。プロシヤ國王は、各地方の獨立的道路建設に反對

したが、結局國王は折れて、今迄國道にのみ行はれてゐた路錢徴收權を今や各州に承認しなければならなくなつた。

ライン州のライン河左岸地方に對しては、この法律は一八三八年四月十一日の勅令に依り公布された。これに依つて、地方道路の建設は非常に發展し、年々の新規建設に依り國道建設を程なく凌駕するに至つた。部分的ではあるが、道路は當時配當金制度に基づいたり又は株式道路(Aktienstrassen)として建設された。

補償法の實施に依つて國道及地方道路の道路行政が地方行政に移管されたので、この發展は終局を告げた。國家の統一的道路行政を樹てんとする努力は、地方の反對に遭つて挫折してからは、國家は道路行政擔當者としては退却したのである。州は、原則として國道行政を引き受け、獨自の地方道路の建設行政を初めた。行政の移管は一八七六年一月一日に終了し、同時に都市の大多數も又都市内に於ける以前の國道(都市通過の國道)の行政擔任者となつたのである。(Der Strassenbau 以下)

若葉吟社詠草

子を抱いて祭見に行く夫婦哉
窓を洩るゝ月に對して風呂靜か
草深く月ほのかなり蟲の聲
夜學子や月に大きな影投げて
噴水に對して寂し暮の秋
頂きを越へ來て廣き花野かな
鯛や母亡き宵の一人膳
弧を描いて大草原の流れ星
土間廣う掃き清められ祭待つ
秋寒し父の戻りを驛に待つ
柿の木に小旗立てたり兄征く朝
朝風に揺れる柿の枝重し
子等寄せて戦地の便り母讀みぬ
行軍の軍歌高らに月明し

秋の山温泉の樋煙りを噴きつゝも

翠山 正一 如同 如水 靜如 同玉葉 淺茅 同落邸 同同 野狐禪